市民がつくるオルタナティブな学びの場
学習と交流が新しい社会の担い手を育てる

北海道の元気！NPO訪問

41 NPO法人 さっぽろ自由学校「遊」

文・加藤知美

◇ 幅広いジャンルの市民向け講座を開催

札幌市中心部の地下鉄大通駅に程近い電車通りに面したビルの一室に、市民がつくる市民のための学びの場がある。主に平日の夜に開かれる様々な講座に、仕事帰りの会社員などが通う。講座のテーマは幅広い。講座案内から拾えば、「札幌・北海道のフェアトレード」「老後の暮らしをデザインする」「沖縄『復帰』40年 その現状と私たち」「ソーシャルメディアの新段階」「学校は誰のもの？」「アイヌ先住権とは何か？」等々のタイトルの連続講座が展開されている。例えば、全五回の連続講座は月一～二回のペースで組まれている。沖縄三線やヨガ、ハーブといった趣味の教室もあれば、英語、ハングルなどの語学も学べる。

こうした講座やワークショップを開催したり、調査提言活動をしたりしつつネットワークを広げているのが、「NPO法人さっぽろ自由学校「遊」」だ。二二年にわたって続いている活動である。きっかけは、一九八九年にピープルズ・プラン21世紀国際民衆行事として道内で開催された世界先住民族会議だった。その実行委員の有志が中心となって、「自由学校「遊」」を設立した。市民がつくる市民のためのオルタナティブな学びの場という方向性は二〇年以上経った今も変わらない。人権、平和、環境、ジェンダー、多文化共生などといった、社会的課題を学んで、市民一人ひとりが新しい社会の担い手として力をつけていく場を目指している。当初は学習塾の教室を借りてのスタートだったが、七年目に自前のスペースを確保した。何度か移転を繰り返し、現在は交通アクセスもよい地下鉄大通駅近くの愛生舘ビルが拠点となっている。

地下鉄大通駅１番出口から歩いて２分と便利な場所に立地

◇ 社会の持続可能性を追求、活動を支える人のつながり

自由学校「遊」の主催する講座は年間四〇コースを超えるが、活動は講座の開催にとどまらず多岐にわたる。学習・調査活動にも力を入れているほか、学習に関する情報提供も積極的に取り組んでいる。ブックレットを出版したり、メーリングリストを開設して情報交換・意見交流を行うほか、一般の書店では手に入りにくいNGO・NPO関連書籍を取り揃えた「つんどく屋」を開設している。

また、スタディーツアーの企画も行う。環境や開発をテーマに、ソロモン諸島、カンボジア、韓国、台湾などで学ぶ海外へのツアーや、アイヌ文化に触れ開発について考える道内ツアー、広島で平和について考える国内ツアーなど、歴史や自然に触れ、現地での交流を重視するなど工夫をこらした独自の企画が組まれている。

このほか、持続可能な開発の実現に必要な教育への取り組みを日本の市民と政府が国連に提唱して始まったキャンペーン「国連・持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」に着目し、二〇〇三年から取り組みを始めている。ESD

は、現在の社会のあり方は持続不可能であるという認識に立ち、市民自らが行動を変えていくための学習活動であることから、自由学校「遊」が目指しているオルタナティブな学びを広げ、深める可能性があると考えた。これまで、参加型・体験型を意識した環境教育や、地域の課題を深めワークショップと市民調査を組み合わせた学習を道内各地で実践してきた。

こうした幅広いテーマの講座やワークショップ、市民調査などを二二年間積み重ねた結果、様々なネットワークが築かれた。講座に参加したり活動に協力したりする会員は三〇〇名を超えている。講座に関わる市民、教育関係者、専門家など常に新しい出会いがあり、人のつながりがベースとなって新しい企画が生まれる。近年は、教室での講座だけでなく、紋別や夕張など地域との関わりを意識した企画が増え、ネットワークは地理的にもさらに広がった。

◇ 活動基盤の強化に着手、若い世代へのアピールが課題

理事で事務局を担う小泉雅弘さんは、設立当初からのメンバーの一人だ。ここまで長く続けてこられたのは、人のネットワークによるところが大きいとみている。また、学びの形も様々でテーマ設定も幅広いので企画の自由度が高く、いろいろなことに挑戦してきた結果でもある。

現在は、常勤二名非常勤一名で事務局を運営している。講座の企画については、授業参加者などが年六回企画会議を開いてアイディア出しを行う。設立当初は事務局もボランティアベースでやりくりしていたが、自前のスペースを持つようになってからは、有給スタッフが常勤している。さらに、二〇〇一年にNPO法人格を取得し、組織運営や財務面が整い、結果的に活動の継続性が高まることとなった。

二〇一二年からは、IT活用とファンドレイジング（資金調達）のプロジェクトを立ち上げて、活動の基盤強化を進めている。フェイスブックなどの交流サイトを用いて、固定しがちな講座受講者の層を広げたり、受講した講座以外の様子もわかるようにすると同時に、映像配信によって、実際の教室に来なくても講座や活動に触れることができるような機会をつくろうと考えている。

教室内での講座の様子

自由学校「遊」の主な収入源は、会費、受講料、寄附金、助成金、事業委託収入などであるが、年によって助成金や委託事業の収入の変動が大きいことが課題である。教室はほぼ毎日講座の予定を入れているため、受講料収入を大幅に伸ばすことは難しく、委託や助成金の獲得に力を入れている。また、使途を明示した寄附を随時募り、プロジェクトの資金を捻出するなどの工夫もしている。

例えば、人材育成を目的にした「ひと基金」は、スタッフや会員などが遠方で行われる研修などに参加する際の交通費を補助するなど、総額で年平均三〇万円程度を支出している。

紋別での地域づくりの活動の様子

幅広いジャンルの講座を中心とした活動によって、様々な興味を持った人たちが集まる場所となっているが、今後は若い世代の参加者を増やしたいと考えている。そのためにもITを使った情報交流は重要となる。また、オルタナティブな学びから様々な価値観の人たちが出会うことによって、社会変革のプラットフォームとなるようなソーシャルセンターとしての機能を持つ拠点としての役割が期待されている。

◆ NPO法人さっぽろ自由学校「遊」
所在地　札幌市中央区南1条西5丁目
　　愛生舘ビル2階
TEL　011-252-6752
WEB　http://www.sapporoyu.org/